

2020年度

学校評価（自己評価）

目標	
	子どもが集団の中で、遊びを楽しみ、育ち合う。
計画	
	○幼稚園生活の中で、子ども達一人ひとりの“個”の存在を大切にしながら、物事に向き合う力や、集団の中の一人としての意識を育てる。 ○生活する基礎を培い、生きる力を養う。 ○今ある環境を活かし、親育てをしながら、子どもの心を育む。

<今年度の取り組み>

- ・前年度の3月から新型コロナウイルス感染防止のための臨時休園となり、4・5月も引き続いて休園の対応となった。このような長期休園が初めてのことで、家にいる子ども達との関係をつなぐ方法はないかと考え、YouTubeを使った動画配信を行った。園の様子や歌、手遊び、ゲーム、クッキングなど正味10分程度の簡単な動画を撮影し、1日1回動画を配信した。
- ・臨時休園中でも2・3号認定児の保育は通常通り行う。検温やマスクの着用、手洗いの徹底、遊具等子ども達が触った部分の消毒を行う
- ・6月から分散登園を行い、7月からは通常保育を実施。感染対策を十分に行ったうえで再開したが、子ども達のマスクの着用や管理といった面では試行錯誤しながら、新しい生活様式が定着するよう努めた。
- ・一泊旅行や運動会などの行事も可能な限りやり方を変えて実施できるようにした。
- ・園庭に年中・年長児対象の新しい遊具を設置した。
- ・以前の園庭に比べると樹木が少なく影がないため、夏場は日差しが強く外で遊ぶことはとても危険であった。そこで砂場に日よけを設置し（3月）、少しでも日差しを和らげるようにした。
- ・働き方改革には引き続き力を入れて取り組み、労基法の労働時間を遵守することを徹底した。ICTはもちろん、パソコンを一人一台導入し、日誌や週案、要録等、一括で管理できるシステムも取り入れていった。
- ・1年かけてホームページをリニューアルし、保護者連絡をメールと共にホームページから発信するようになった。今回のリニューアルによりスマートフォンにも対応できるようにし、手軽に閲覧できるようになった。手紙の削減にも繋げていきたい。また、個人情報の保護のためパスワードを入力して入る園児専用ページを作成した。
- ・職員が65名以上になり、それぞれの考えや置かれている状況を把握し辛くなっているため、今年度からストレスチェックを行い、ストレス度合いを把握すると同時に面談を行うようにした。

評価項目		
心身の健全な成長（あそび）	体を十分に動かしてあそびを楽しむことができる。	△
	好きな遊びを見つけて存分に楽しむことができる。	○
	園の職員全員で子どもを育てている。	△
	様々な活動に挑戦する中で、友達と刺激し合い達成感を味わうことができる。	△
	他学年との交流をもち、育ちに生かしている。	×
	自分に自信を持ち、友達を認めることができる	○
	思いを言葉で伝え合い、豊かな表現力を身に付けることができる。	○
	遊びを通して相手の気持ちに気づき折り合いをつけることができる。	○
	戸外での遊びを通してバランスの良いからだづくりができています。	△
	子ども達自ら遊びを工夫し、ルールや役割のある遊びを作り出す。	○
じっくりと遊びの時間をもっている。	△	
教育環境（自然）	園内の自然（樹木、果実、花、動物、虫、畑の野菜）を通して季節を感じることができる。	△
	いきものに接することで“命の大切さ”を知ることができる。	○
	畑の野菜を育てることで生長、収穫、食べ物のありがたみを知る。	△
	夏期等、あずかりの体制が整えられている。	○
	木の実や落ち葉などの自然物を使って遊ぶことができる。	△
	実際の自然に触れ、五感を使って感じてみる。	△
	教師自身が園庭の木々や草花を知り、子どもの興味関心の動機づけができる	△
	起伏のある広大な敷地で遊ぶことができる	○
保健衛生（食育）	植物や動物を育て、その成長に興味関心をもつ。	○
	季節の伝統料理を頂く。	○
	食に対する意欲をもち、マナーを身につける。	○
	旬の食材や自園で採れた野菜を味わえる。	○
	アレルギー対応ができています。	△
	専任の保健師がおり、怪我の対応（簡易処置）を適切に行える。	○
	健康に過ごすための季節ごとの注意点を看護師や教師から教えてもらう。	○
食育を保護者にも考えていけるように栄養士との相談会を企画し家庭での食育に園が力を発揮する。	○	
保護者との連携	家庭訪問を行い、子どもが育つ環境を理解している。	×
	子育て相談、カウンセリングなど、保護者を支える体制が整えられている。	△
	ホームページで日々の子どもの姿を知ってもらう。	△
	保護者に、より保育のねらいなどを理解してもらう機会（参観や講座、懇談、グレース会、行事など）をもつ。	△
	クラスや個人の様子などを、電話やお便りで保護者に丁寧に伝えられるよう努めている。	○
	活動の過程を見てもらう機会をもつ。	△
就学準備	グループ活動、リーダー活動を通して責任をもって行動することに気づく。	△
	文字、数字に興味をもつために、生活の中に工夫して取り入れていく。	○
	一つの目標にみんなで取り組み、達成感、満足感を味わう。	○
	一人ひとりの違いを認め共に育つようすすめていく。	○
	基本的な生活習慣を身に付ける。	○
	規範意識を身に付ける。	○
その他	卒園生へも園へ来ることのできる機会を与え、その後のつながりをもっていく。	×
	職員としての品位を保つよう心がけている。	△
	個々の教師としての向上心、同僚との意識の高め合いが感じられる。	○
	地域との関わりをもち、地域とも連携し、子育てを行っていく。	△

<今後の課題>

- ・感染防止対策を実施するものの、実際に十分なものであったかは疑問が残る。参観や懇談などができず、保護者との連携も不十分であったため、その点が次年度への大きな課題である。
- ・コロナの影響で、交流（縦割り保育）や運動面で制限が多く工夫し最善をつくしたものの、更なる努力が必要。
- ・職員の労働時間を各々が守る意識をもち、時間の有効な使い方を考える。
- ・SDGsについて子ども達と理解を深め、できることから取り組んでいく。
- ・新しい生活様式として、オンラインでの懇談会や個人懇談を取り入れていくことも考えていく。
- ・無駄をなくす、資源を大切にすの意味でも、手グ美のペーパーレス化を進めていく。
- ・カブトムシの専用飼育舎を設置し、さらに関心を深められるようにする。
- ・千里山保育園やデイサービスなど他の施設との交流を深める。